

# Essence of GL

※ グローバルリーダー(及びその育成に係る取組)を本校では「GL」と呼び、様々な活動を展開しています。

会津高校における  
探究活動の要点を伝える



エッセンスとして  
県内各地の学校に広がる

## 「復興と未来を担うグローバルリーダー育成事業」(H27~29年度)の目的と到達目標

### (1) 目的

地域等が直面する問題等に対して、高校生が自ら課題を設定し、グローバルな視点から探究・研究活動を行い、その研究成果を地域に還元するとともに、将来本県の復興と地域活性化に貢献し得るグローバルリーダーの育成を図る。

### (2) 到達目標(目標が達成された時の生徒及び学校の姿)

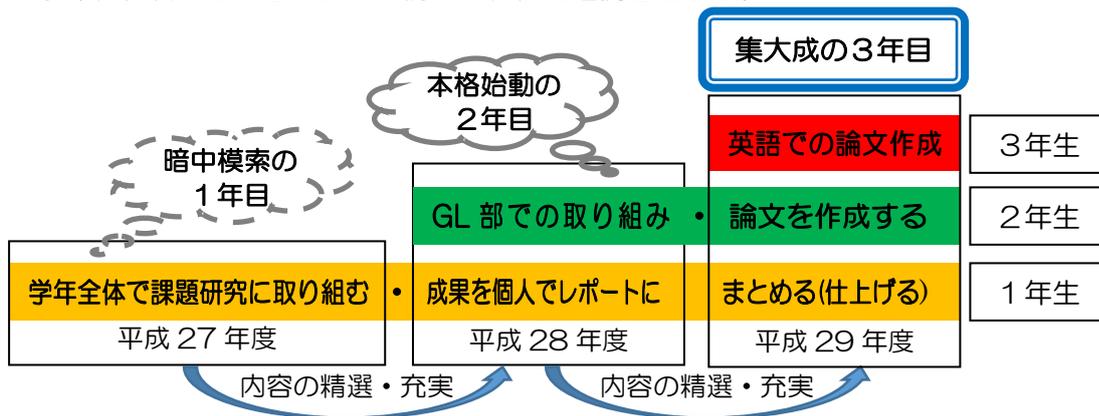
自分という人間の形成プロセスを見つめることを契機として、地域の諸課題とグローバルな問題の関係性に気づき、地域の諸課題の解決のために、グローバルな着想・構想・思索に基づいた研究活動を実現できる生徒が育成される。そのことによって、将来、課題意識を明確にした探究精神旺盛なグローバルリーダーとして成長することを目指し、やがては本県の復興と未来を担おうと真摯に考え行動する生徒集団を核とした学校が形成される。

### 【事業の展開】

各学年の取り組みの基本的な枠組みは維持しつつも、年度を重ねるごとに前年度の活動を組織的に省察し、内容の精選・充実を図った。

- 「GL 育成推進委員会」を新たに設置し、事業の企画・運営を総括。  
… 学年、教科から成るメンバー構成で、校内連携を図った。

生徒の「学び合う」つよみ。教師と  
その中であらわれる。教師と  
それは生徒の具体的な動き  
必ず改善点が明確になる。  
まずは1年やってみると、



### 【3年間の活動の成果として見えてきた5つの特色】

- ① 地域課題を探究する「課題研究」に1年生全員が取り組み、発表する
- ② 研究の成果を「論文・レポート」にまとめる
- ③ 「実践的な学びの場」として様々なフィールドワークを展開する
- ④ 意欲的な有志生徒集団を「GL部」に編成し、探究活動を発展させる
- ⑤ 国内研修・海外研修を実施し、プレゼンテーション・交流体験を行う

学年全体での  
取り組みに  
関わる特色

GL部での  
取り組みに  
関わる特色

## 特色① 地域課題を探究する「課題研究」に1年生全員が取り組み、発表する

身近な地域の現状を知り、地域の課題を把握し、その解決に取り組むという探究の「型」は、言わば「例題」を解くこと。その活動を通して培った力（学んだ力）は、その後の「学びの土台」となる。課題研究の成果を、授業内および年度末の課題研究発表会で発表することで、生徒相互の知的な刺激を生みだす。

## 特色② 課題研究の成果を「論文・レポート」にまとめる

研究成果の口頭発表（プレゼンテーション）という見た目の出来映えに満足せず、「論文・レポート」という論理的文章にまとめ、自分自身で研究内容を省察できる形に仕上げさせる。

### 特色①②を打ち出すための手立て

#### 1) 「総合的な学習の時間」(1単位)と「社会と情報」(2単位)を連動させたカリキュラムの実施

・総学の時間では、通常のクラスとは異なる「ゼミ形式」でテーマごとに探究活動を組織した。

28年度：「会津若松市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の5つの柱をもとにゼミを編成

例)「医療・福祉」「観光」「再生可能エネルギー」「伝統、町並み」「教育」など

29年度：生徒の進路希望をもとに、キャリア教育的な観点も取り入れてゼミを編成

例)「行政・政治・経済」「テクノロジー・ロボット・エネルギー」「歴史・観光・文化」など

・情報の時間では、情報収集・資料作成から一人一人の発表という課題研究における一連の活動を軸に、教科として習得させるべき知識・技能を再構成し、総学の時間との関連性を高めた。

#### 2) 「地域」に目を向けさせるための仕掛け作り

・地元の先端企業による講演会を通して、身近でグローバルな活動を展開している企業を知る。

・会津大学や福島大学と連携した研修を通して、身近にある「研究の世界」に触れる。

#### 【エッセンスの活用例】

・本校では1年生のみでの実施だったが、生徒の実態にあわせて活動期間を2年生までみる。

・普通科の高校ではあまり実施されていない、課題研究発表会を年に1回実施する。

・学年にまたがって共通の課題設定のもと、学校全体として生徒が継続的に活動を展開する。

## 特色③ 「実践的な学びの場」として様々なフィールドワークを展開する

実践的な学びとは、教室内で閉じられたものではなく、学校での学びと世の中のつながりを実感できる学びである。生徒の思考は、“現場”や“現物”を知ることによってイメージ論に留まらず、より深みをもつ。

### 特色③を打ち出すための手立て

#### 3) 地元企業や官公庁に足を運び、実生活で生起する課題を理解する場をつくる

#### 4) 福島県立博物館と連携し、浜通りを中心とした「被災地へのフィールドワーク」の実施

・博物館に保全されている「震災遺産」に関する学習会と、被災地フィールドワークを通して、「復興と未来を担う」という本事業の趣旨の大前提とも言える現状認識を養う重要な機会となった。



#### 【エッセンスの活用例】

・今ある学校行事（文化祭・ボランティア活動等）にすでに内在化している地域とのつながりを生かした探究活動を展開する。

・外部の教育資源（地元企業、研究機関、博物館等）を積極的に活用する。

#### 特色④ 意欲的な有志生徒集団を「GL部」に編成し、探究活動を発展させる

2年次に編成した「GL部」(グローバルリーダー部)とは、1年次の活動を通じて、主体的に探究活動に取り組みたいと考えるようになった意欲的な生徒集団を「部活動」として組織したもの。総学の時間の一部もその活動に充当する**弾力的な教育課程上の位置付け**を図った。

〔イメージ図〕



- ・通常、部活動を授業時間内で行うことはできないが、GL部の活動の一部は、総学を活用した。

#### 特色④を打ち出すための手立て

5) 東北大学と連携した論文指導体制の構築

6) 研究成果を「日本語論文」にまとめ、さらに「英語論文」を仕上げる

- ・1年次のレポートよりも、論文としての「学術性」を帯びたものに仕上がるよう努力させた。

7) 実践的な英語力の向上を図る学習機会を設ける

- ・プリティッシュヒルズ研修(2泊3日)
- ・会津大学から講師を招いての英語研修(年4回)
- ・県英語弁論大会・英語プレゼンテーション大会等への参加

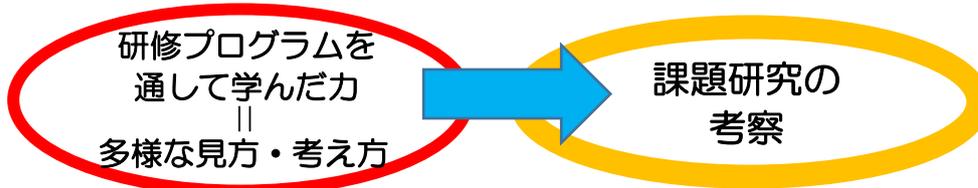


#### 【エッセンスの活用例】

- ・部活動として位置付けることで、生徒が日常的に探究活動を行いやすい環境を整備する。
- ・意欲的な生徒集団が形成されやすい生徒会活動を工夫する。

#### 特色⑤ 国内研修・海外研修を実施し、プレゼンテーション・交流体験を行う

「グローバルな視点とはどのようなものなのか」を探究するために、国内・海外での研修プログラムを企画し、現地での発表や交流を通して、生徒が体験的に学んだ。プログラムを通して獲得した多様な見方・考え方(グローバルな視点)は、課題研究を進める上での技能・観点として活用された。



#### 特色⑤を打ち出すための手立て

8) **アメリカ研修**

- ・ボストンでの語学研修 … 福島の実況を伝えるプレゼンを実施
- ・ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学でのキャンパスツアー

9) **台湾研修**

- ・淡江大学での授業に参加
- ・地元の高校との交流を深め、授業に参加

10) **国内研修**

- ・熊本・水俣研修旅行
  - ・熊本県立水俣高校(SGH)との合同ポスターセッション
  - ・複数の水俣病の語り部の思いに触れ、複眼的思考を養う



#### 【エッセンスの活用例】

- ・修学旅行をよりテーマ性を帯びたものに再編成して研修の機会として明確に打ち出す
- ・立場の異なる複数の人たちとの出会いや、同年代の生徒と交流する機会をつくる

## 探究活動に対する生徒の自己評価・変容① (H28・29の各1学年の振り返りから)

自己評価の項目	H28	H29
積極的・意欲的にゼミに取り組むことができた	81%	84%
ゼミ(分野別)の内容には満足することができた	82%	81%
課題研究を通して、何か新しい気付きや発見が得られた	89%	92%

- 年間を通じた探究活動に対して、高い評価を得ることができた。

【生徒の声】自分でテーマを選び、調べ、発表する過程の大変さと楽しさを知ることができて、とても良かった。正解がない問題でも、自分なりに答えは導けるものだとわかった。

自己評価の項目	H28	H29
「地域」に対する関心を高めることができた	81%	65%
「世界」(グローバル)に対する関心を高めることができた	65%	60%

- 探究活動を通じて、生徒の関心を高めることができた。
- ▲ 学年による差、グローバルへの関心の高め方に改善が必要。

【生徒の声】会津には地元をもっとよくしようと日々、考えながら仕事をされている方々がたくさんいらっしゃる事が分かり、私もその一人になれるよう、今、勉強を頑張るべきだと気付かされ、とても良い経験をする事ができた。

自己評価の項目	H28	H29
自分の進路選択に役立つ内容だった	61%	69%

- 進路選択とのつながりをもたせる工夫ができた。
- ▲ キャリア教育的視点から改善できる余地がある。

【生徒の声】私が将来直面するかもしれない問題に今まで向き合っていなかった分、たくさんの発見や驚きがあった。ゼミで学んだことは、将来必ず役に立つと思うので、それを進路選択などにも生かしていきたい。

自己評価の項目	H28	H29
GLの活動は、自分にとって有意義だった	88%	81%

- 探究活動が有意義であると感じることで、そこ学んだことを土台として、今後の学びに向かうことにつながる。

【生徒の声】福島県のことについて、より詳しく正確に学ぶことができた。大変なこともあったけれど、挑戦しただけ得られるものも多かった。

## 探究活動に対する生徒の自己評価・変容② (H29の2学年 GL部の振り返りから)

自己評価の項目	H28	H29
福島の復興について深く考えるようになった	85%	38%
英語での会話や発表に抵抗感が減ってきた	85%	43%

- 意欲的な生徒集団が研修プログラムを通じて、相互に刺激を与えながら成長していった。

【生徒の声】論文を書き上げる過程や研修中、他の人の発言を聞いたり姿勢を見たりして、その考察の深さやするどい着眼点に刺激を受けて、自分ももっと多面的にみなければと意識するようになった。

## 探究活動を進めるための展望として

- (1) 「**課題研究**」を軸に活動を展開する
  - ・ 探究とは… 生徒が主体的に課題を発見し(気付き)、課題を解決する(考える)学習  
フィールドワークを行い、社会との接点を探る実践的な(行動する)学習
- (2) 「総合的な学習の時間」と「社会と情報」を**連動させたカリキュラム**
  - ・ どの高校でも実現可能な教育課程上の工夫
- (3) 「**総学ノート**」を活用して生徒の活動を記録させる
  - ・ 生徒が自身の探究活動を省察できるプラットフォームとして機能させる

本事業の詳細について、別刷の生徒の論文集及び活動の記録をご参照下さい。本校HPにも専用のリンクがございます。

福島県立会津高等学校  
〒965-0831 会津若松市表町3番1号  
電話：0242-28-0211  
FAX：0242-28-6680

